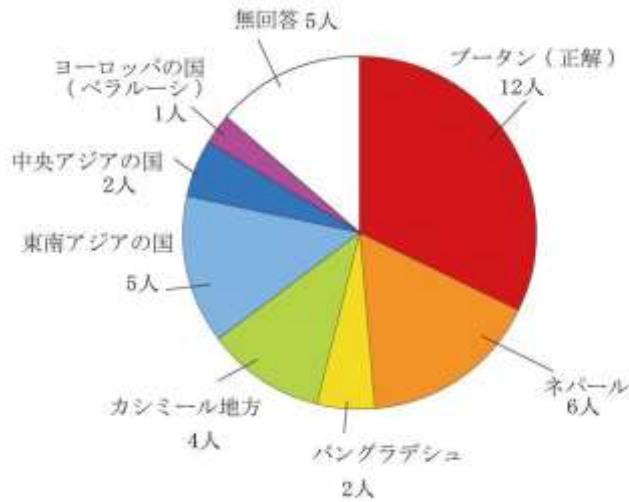


ブータンについて学びと支援を考える  
群馬県立桐生女子高等学校 2年5組 40人の提案

群馬県立桐生女子高等学校 教諭 田中隆志

# 1 授業前アンケートの結果

(1) ブータンはどこにありますか?(世界地図を使って回答)



(2) ブータンの知っていることを書いて下さい

## 【妥当だけどあいまい】 9人回答

- ・アジアにある 2人
- ・アジアに属する
- ・旗がおもしろい
- ・国の大きさが小さい
- ・国が小さい
- ・ユーラシア大陸のどこかにある
- ・自然がたくさん
- ・王様がいる

## 【不適切】 2人回答

- ・人口 2200 万人ぐらい(?)
- ・中央アジアにある

## 【妥当】 8人回答

- ・ヒマラヤ山脈の東部にある
- ・国旗が龍
- ・国旗に龍がいる
- ・内陸国
- ・仏教?
- ・今の王と王妃が日本に来た
- ・東日本大震災後に国王が来てくれた。寄付してくれた。
- ・島のために電気を通さないところがある

## 【先入観によるもの】 19人回答

- ・国民の幸せ度?が世界一
- ・国民充足度 (みたいなやつ) が世界一
- ・国民の幸福度が高い
- ・国民の不満が少ない
- ・幸せだと感じている人が多い
- ・幸せと感じてる人が一番多い国
- ・幸福な国
- ・幸せな国
- ・幸せの国
- ・幸せな国 3人回答
- ・幸せ
- ・幸福
- ・世界一幸せな国 5人回答

## 【不明】 3人回答

- ・よく停電する
- ・象がいる
- ・サッカーやっていた 日本が戦ってた

## 【無回答】 7人

### (3) ブータンのイメージを書いてください

#### 【国土】

- ・小さい
- ・面積が小さい

#### 【生活文化】

- ・汗。人ごみ。
- ・人が多そう
- ・名前が変わってる
- ・幸せ 2人回答
- ・幸せそう
- ・幸せな国 3人回答
- ・幸せないところ
- ・明るい
- ・国は豊ではないけど、人との関わりが強く協力し合っているイメージ
- ・みんな仲が良さそう
- ・優しい人が多い
- ・食事が濃そう
- ・ご飯おいしそう。
- ・ご飯がおいしそう
- ・料理がおいしそう
- ・豚を食べていそう
- ・豚をいっぱい食べていそう
- ・家がかわいい感じのイメージ
- ・豚を飼っていそう
- ・風車ありそう
- ・白い家
- ・伝統的な感じ
- ・貧しそう

#### 【自然】

- ・標高が高い
- ・山 3人回答
- ・砂漠
- ・自然が豊か
- ・自然がいっぱいありそう
- ・花がいっぱいありそうです
- ・あったか
- ・暑そう。熱帯。
- ・暑そう
- ・暑い 4人回答

#### 【宗教・民族文化】

- ・何か宗教をやっている
- ・仏教 2人回答
- ・ブータンと人の顔は日本人とかの顔に近い
- ・インド人みたいな人多そう
- ・インドと中国がまじったかんじ
- ・ヒンドゥー教を信仰している

#### 【政治】

- ・王様がやさしそう
- ・王様がいそう
- ・王様
- ・発展途上国
- ・平和そう 2回答
- ・平和 6人回答
- ・平和で穏やか
- ・戦争が少ない
- ・貧しそう
- ・貧しいけど、良い国なのかもしれない

#### 【不明】

- ・メルヘンな感じ
- ・ぶた。
- ・めちゃかわいいぶたのマスコットがいそう
- ・アラビアみたいな感じがする
- ・バリ島のようなイメージ
- ・南米?
- ・大変なイメージ
- ・あまりよく知られていない
- ・国旗が赤と黄があったような
- ・サッカーやってた

## 2 提案のプレゼン当日の様子を掲載した新聞

2013年(平成25年)12月19日 木曜日

タリ 桐生タイムス

(昭和記1年2月8日第三種郵便物認可)

### 課題と支援策 桐女高2年生が調査し発表

# 「世界一幸せな国」の実情は？



ブータンの実情について調べた学習成果を報告する桐生女子高校2年生5組の生徒たち

ブータンは世界一幸せな国。桐生女子高校の担任校長の2年生40人が、国民総幸福量GNHの高い数値で知られるブータンの実情について授業で調べ、18日、その成果をクループへんに発表した。精神的に豊かな国として注目されるが、実際にはさまざまな課題を抱えており、今後ブータンとの交流を深める上で、日本はどんな支援を展開すればいいのか、生徒たちは考えを示した。

### JICAでブータン訪問した 田中教諭の情報をもとに 6つの観点から

同校の田中隆志教諭は今年8月、JICA(国際協力機構)の教師海外研修事業でブータンを訪問。同国の実情を肌で感じ取り、体験談や写真など、さまざまな生きた情報を持ち帰った。今回の授業は、2年生5組の40人が6班に分かれ、田中教諭が持ち帰った情報をもとに、それぞれ「自然」「医療」「教育」「政

治」「生活文化」「仏教と他宗教への対応」について調べを進めた。18日の発表会では、10時間わたって取り組んだ学習の成果を、生徒たちが模造紙やポスターにまとめて発表。教育を調べた班は「ブータンには義務教育制度がなく、貧困家庭の子どもたちは教育を受ける機会に恵まれない。学校に行けない、いい仕事にも就けず、結局貧困から抜け出すことができない」と、課題を指摘。一方で、「足るを知る」や「思いやり」の精神を掲げる教育目標について、日本も学ぶべき点があると述べた。宗教について調べた班は、「国民に根づいた互助の精神はチベットの仏教に由来する」としつつ、かつてブータンに移住したネパール系住民が国籍を失い、難民となってキャンプで暮らしている事実も指摘。こうした課題の解決に向け、どんな支援策があるのか、考えることが大切と呼びかけた。

### 3 学びと支援の提案

## 1 班 自然環境からの学びと支援



私たちは「ブータンの自然」について調べました。

まず自然について「良いところ」は、自然が豊かで動物がたくさんいること。また様々な気候があり、様々な作物があることです。たとえば標高 150m ぐらいでは、稲やマンゴー、野菜などがあり、600m ぐらいでは小麦、トウモロコシ、ジャガイモ、1200m ぐらいでは大麦、レモン、みかん、2500m ぐらいではヤクがいます。ヤクのミルクからはチーズが作れるそうです。次にブータンの地形では、北は標高が高く、気温が低くて、乾燥しています。逆に南は標高が低く、気温が高くて、湿度が高いです。これらの良い点をまとめると、ブータンは自然が豊かで様々な気候帯に人々が住んでいるために、多くの作物が育つことができます。私たちの提案としては、「様々な気候の特色を生かしたツアーなど観光」としても気候を利用すれば、ブータンをさらに助けられると思います。



次に自然災害の脅威などについてまとめました。まずはブータンで起こる主な災害につ

いてです。一番起こるのは(模造紙の)グラフからわかるように地震で、全範囲に影響を及ぼします。他にも嵐、洪水、かんばつなども起こります。洪水は非常に広い範囲で起こるので、夏は非常に危険です。次はGLOF(グロフ)です。GLOFとは氷河湖決壊洪水です。氷河湖は氷河が後退したあとにできた天然のダム湖です。地球温暖化によって氷河が急速に溶けて水を堰き止めていたモレーンが崩れて起こる洪水です。2005年の時点では、ブータンには24のGLOF発生リスクが大きい氷河湖が確認されています。次は地震についてです。東日本大震災が起こった2011年にブータンでも地震が起こりました。そのためUNICEFは、被災した小学校にテントを提供しました。ブータンのハザードマップを見る限り、全部の地域が危険だということが分かります。次は洪水です。ブータンは水力発電が非常に盛んです。雨季には川が増水するので、ここで洪水が起こると大変危険です。

最後に衛生面です。市場では地面にシートを敷いて野菜を置いています。砂や塵などが野菜の上にかかって、私たちから見ると非常に不衛生だと思います。



このような悪い面から、ブータンはとくに自然災害も多く、また不衛生であるのにもかかわらず、対策もしていないし、訓練もしていないと、と私たちは思いました。

先程までブータンの良い面、悪い面からブータンを見てきました。今までのことからブータンから私たちが学べることは、ブータンが動植物を大切にしていることです。自然保護に関して政府は森林資源の60%を維持する法律を施行しています。現在はブータンの全国土の72%が森林になっています。今もなお自然を大切にしていることが分かります。

最後に、私たちがブータンにできる支援を考えたことは、一つ目は「お金」で、そのお金で、ダムの建設や、治水の整備などを行ってもらうためです。二つ目は日本の技術を伝えることです。その例として自然災害の防災プログラムの提供や、ハザードマップの活用支援などです。三つめは日本が個人および企業へのボランティアを推進し、ボランティアを増やしていくことだと思います。

## 2班 医療・福祉からの学びと支援



私たちは、ブータンの医療について調べました。まずはブータンの医療の良い所から発表します。



まずブータンの医療の憲法をめぐる既定と、医療への対応について説明します。ブータンの憲法には、政府は全ての国民に対して、現代医療と伝統医療の両方の医療において無料の医療サービスを提供するという規定があります。この条文のポイントは二つあって、一つ目は全ての医療サービスが無料であること。二つ目は、現代医療と伝統医療がお互いを補完し合うものとしていることです。また伝統医療も、現代医療と同じく全て国の管理下に置かれ、目下の所、民間の医療サービスは存在しません。

次にブータンの国民が支払う医療費について説明します。ブータン国内では、現代医療も伝統医療も、医療費は基本無料です。がんなどの手術費用も無料です。また治療できない難病の患者は、国費で隣国のインドやタイの病院に送られます。(模造紙の) 2008年の表を見ると、医療費に占める政府支出が、世界 60.5%、日本 80.5%、ブータン 82.5%と、世界にくらべて、日本、ブータンがともに割合が高いです。また一人当たり医療費は、世界 854



ドル, 日本ドル3190ドル, ブータン100ドルと, 世界に比べ日本は4倍, ブータンは世界の1/8です。ブータンは非常に, 一人当たりの医療費が安いことがわかります。

次に医療から少し離れますが, ブータンは世界初の禁煙国となっており, 他に禁煙国と呼ばれる国は沢山あるのですが, ブータンのように国家全体で禁煙国となっている例は, ほかにありません。国民の健康や幸福を維持する観点から販売そのものが禁止となっており, 販売した場合の罰金は, 日本円で 24000 円。ブータンの生活レベルから言ったら, この額は非常に高額です。私たちがここで誤解してはならないのは, 販売は禁止ですが, 喫煙そのものは禁止ではないので, もしも(日本人が)出張などの際にブータンに行くとなったら, 200%の税金がかかってしまいますが, 1 カートンまではもっていくことができます。しかし公共施設や政府機関の敷地, 寺院や他の宗教施設の近くでは吸ってはいけません。喫煙そのものが禁止ではないとはいっても, 販売がされていないので, 今の時点でみると, やはり日本の喫煙, 禁煙対策はブータンに遅れをとっており, ブータンを見習うべきだと思います。

次に予防接種について説明します。一歳児への予防接種の普及率は, はしかは世界 82%, 日本 94%, ブータン 98%, 三種混合は世界 82%, 日本 98%, ブータン 96%, B型肝炎は世界 70%, 日本データなし, ブータン 96%となっています。つまりブータンは予防接種の普及率も高いことが分かります。

次は(医療)ボランティアについてです。(模造紙の)左側の写真は現代医療を支える医師と看護師です。ボランティアスタッフもいます。(模造紙の)右側の写真のように青年海外協力隊の隊員も, 総合病院などで働いたりしています。

次はブータン医療の悪い点についてです。

※以下生徒が考えたキャラクター「ぶーさん」のストーリーに沿ってプレゼンが進行。



「ぶーさん」は今日も, いつものように唐辛子(料理)を食べています。

ブータンはカロリー摂取状況が非常に悪いです。そのため 5 歳児未満の発達障害児の割合が多いです。

**ある日「ぶーさん」はコブラに噛まれてしまいました。**

ブータン特有の疾患・事故は、アーチェリーの矢が刺さった、コブラに咬まれた、崖から転落や、落石などがあります。

また看護師については教育制度上なりたくてなったわけではないので、モチベーションが低い傾向にあります。患者には家族が24時間付き添い看護します。そのため家族は、看護のために休暇をとります。

蛇に咬まれた「ぶーさん」は救急車を呼ぶことに決め、2日後になって病院に到着する救急車に乗りました。そして、おしゃべりな「ぶーさん」は、いつしか無口になっていました。

ここでブータンの救急医療について説明します。さきほどの「ぶーさん」の乗った救急車のように、ブータンの救急車は、病院から遠い地域だと、患者の運搬に二日かかってしまう地域もあり、1分1秒を大切にす救急医療では少し遅いと思います。

次にブータンの医療施設の実態を説明します。ブータンの医療施設は東や南の地区にはいっぱいありますが、北の方には3か所しか医療施設がない地区もあります。また病院が31、診療所が181、民間病院38、計医療施設が250なのに対して、医師が181人と少ないのが現状です。

**病院へ着いた「ぶーさん」はICUに入りました。**

ブータンのある総合病院（パロ王立病院）のICUの現状は、入院患者は平均24.4人、約70%が救急外来です。ICUの滞在期間は、85%の患者が1週間以内に他の病棟に移動または死亡しています。1か月から3か月の長期滞在患者は全体の2%程度で、死亡率は49%という状態であって、ブータンのICUは優れているとは言えません。

ところでブータンでは（腎疾患の患者に対しての）人工透析の道具を水道水で洗っているため、衛生的とは言えません。日本のように水が透き通っているような水道水であれば、まだ大丈夫なのかもしれないのですが、ブータンの水道では寄生虫の卵などがあるため、水道で洗った器具で人工透析をしても何も意味がないと思うので、日本の人工透析に対してブータンの人工透析はまだ改善する点が多いと思います。

**数日後、残念ながら「ぶーさん」は亡くなってしまいます。**

「ぶーさん」の命は果たして救うことができなかつたのでしょうか。もし、「ぶーさん」がみなさんの家族や、友人や、恋人だったら、「最善を尽くされたお医者さん、看護師さん、ありがとうございました」と、心から言えるのでしょうか。

ブータンの総合病院で働く、青年海外協力隊の隊員レポートには、こうあります。「医師の知識、技術が十分でない。適切な診断、抗生剤で予防できるはずの疾患が予防できていない。できる検査、治療が限られている。定期検診がない。発見された時には末期の状態である。」・・・これが現状です。確かに無料で治療が受けられる、全ての国民のことを考えた政策があるのは素晴らしいと思いますが、病院に来る人の思いは、「治してもらいたい。助かりたい。生きる。」ということなのだということを忘れてはいけません。医療の現場を

改善することで、救える命は必ず増えます。現在すでに様々な支援が行われていることは知っていますが、このような現実がある以上、もっと力を入れて医療の環境を整えていくべきです。

以上のことから、まず日本がブータンから学べるのは、医療費がかからないため、外国人も安心して来られることから、観光誘致に繋がるということです。ブータンでは、すべての生き物においても医療費がかかりません。今日の日本では、医療費が高い動物に保険もきかないため、このようなことも日本は導入できたら良いと思います。

一方、支援については、医師、医療施設、医療品、この三つがキーワードだと思います。まず医師については、研修生の長期化・研修内容の充実をはかる。そして日本人医師を多く派遣することにより、研修医の基礎向上を図ります。医療施設については、医療機器の提供や救急車の更新や修理をすることにより、しっかりとした医療現場の土台を作ります。医療品は投薬量や種類などを適正なもの取り決める。これらの三つの支援をしていき、医療水準の向上をしていくべきです。

最後に私たちが感じたことは、我が国のすぐれた技術を生かして、最大限に支援、協力していくことは大切なことだと考えました。



### 3 班 教育からの学びと支援



私たちの班は、ブータンの教育について調べました。

まず学制についてです。学制の基本的な流れは、6・2・2・2 制で、大学は極めて優秀な人しかいけません。また進級時に試験があり、落第もあるので、小学生でも本来中学校や高校に行っているはずの年齢の人がいるのもおかしくありません。

次にGNH教育です。GNH教育とは、①足るを知る、②伝統文化の理解、③自然を愛する心、④他者を思いやる、などがあり、こういったものを教育目標として推進しています。たとえば教科書の問題文では、以前は「ものが盗まれた」という表現から、「牛を困っている人にあげた」に変えたということが例にあげられます。またディグラムナムジャ (Driglam Namzhang) の精神というものがあり、社会人としての礼儀作法を教えています。ディグ・ラム・ナム・ジャにはそれぞれ意味があります。「Drig」はみんなで一つになっていこうという調和を意味します。次に「Lam」は制服などの身のこなしを意味します。「Nam」は規則を守っていこうという秩序や制度を意味します。最後に「Zhang」はこれらを守り続けようといった保持を意味します。

次に授業についてです。ブータンでは、幼稚園がグループで話し合うディスカッション教育を導入しています。低学年からすべての授業を英語で教えていて、英語に力を入れています。

また学校では、上級生が下級生の面倒を見る態勢がとられています。

最後に外部からの支援の関係についてです。農村部の学校によっては、給食は、WFP (世界食料計画) の学校給食プログラムにより配給されたり、支援団体、地元の有志により支援を受けています。学校給食プログラムというのは、学校で給食を作る材料を配給するシステムです。

これらのことから私たちが良い点だと思ったのは、優秀な人間を育てる所と、思いやりをもつ心を育てる点です。授業料は無料で、全国民が受けられるというシステムになっていて、小さい頃からの英語の教育と、落第という乗り越えなければならない「克服試練」

があるため、より素晴らしい人材を育てることが可能です。また勉強だけを教えることはなく、人間として最も大事な思いやりの精神「ディグラムナムジャの精神」を育むための教育が行われています。



次に課題点をまとめました。まずワースト 3 を発表します（以下、音楽番組のランキング発表のイメージで）。



まず第 3 位！教育施設の少なさです。ブータンの北部では貧困率が低いにもかかわらず、教育施設が少ないために、学校に行くことが難しくなっています。

第 2 位！貧困です。南部とくに南東部に貧困は多くなっています。貧困が多い地域は、人口も多いため、教育施設も多くなっていますが、貧しいため学校に行けていないのが現実です。

そして第 1 位は！進級の難しさです。義務教育がないということは、進級するには試験があるということで、試験に落ちれば留年か、退学ということになります。よって小中校

と上がるに連れて、学校に行ける可能性が低下していきます。

**次にその他の課題点についてです。**それはブータンの都市部と農村部に生じる貧富の差です。ブータンの都市部の学校に通っている生徒は、昼食を持参しているのですが、ブータンの農村部の学校に通っている生徒は、支援団体による配給を受けていることなどからわかります。貧しいということで、学校にいけない。つまり学歴がないので、安定した職業に就けず、そこに生まれた子供も同じ運命をたどるというサイクルができてしまっているのです。

以上のことからブータンの課題点は、義務教育がないというのが一番の問題だと思います。義務教育にすれば、少しでも家庭の負担を減らしたり、貧富の差で教育を受けられないということがなくなります。

また日本がブータンから学べると思ったのは、思いやりや、真面目な精神を育てる教育方針があるという点です。それは（私たちが）日本人が勤勉さに欠ける印象を受けたため、その点が必要だと思ったからです。

また日本がブータンに支援するべきだと思ったのは、学校建設、ボランティアの派遣、そして「研修生」を受け入れるという点です。「研修生」を受け入れるというのは、ブータンでは大学に入れなかった人も、日本でなら大学に入れるという可能性があるのです。そのような人たちを受け入れていこうということです。それは日本の資金力があれば、できると思います。

最後に、ブータンの教育について調べて思ったことですが、このような課題を解決するために、日本のような義務教育を行うことで、誰でも進級できるようになり、少しは彼らの生活も安定していくのではないかと思います。義務教育のあるこの日本に住んでいる私たちは、将来への職業選択の自由や、貧富の差もなく、とてもいい国に住んでいると私たちは思います。ですからブータンの精神の「自国を愛する」という部分を、私たちはもっとリスペクトし、これからも日本をみんなで愛せる人間を作っていたほうがいいと思います。



## 4班 政治からの学びと支援



私たちはブータンの政治について調べました。



まず最初に外交の問題点です。第4代の国王時代の1990年、反政府運動が激化し、難民が発生しました。また2000年に入ると、中国の越境行為により、近くの仏教国が侵略され、ブータンも2006年に北部の領土が侵略されてしまいました。これを受けて、ティンレイ前首相は（中国との融和策を進め）、それまでのインドからの家庭ガスの補助金を廃止し、中国との未確定の国境の確定を目指しました。しかし（2013年）7月に着任したトブゲイ首相は経済成長に向け、具体的な政策として、中国との経済関係を後退させ、インドからの補助金を復活させました。

次に、民主化、GNHの問題点です。ブータンは都市部と農村部の地域格差が大きく、2011年の統計で、1日当たり2ドル、日本円で200円で生活している人は国民の25%です。それに対して、国内ではGNHよりも経済発展を望む声があります。トブゲイ現首相は、「テ

インレイ前首相が重視していたGNHは国民の利益にはなっていない」と、批判しています。その原因は、昨年、国連による基準でブータンは経済的には最貧国に分類されていることや、政府がネパールとインドの難民キャンプに住む人々の基本的人権を否定し続けていることなどがあります。ブータンの難民は全国民の 1/6 以上おり、家を追われて、選挙権を奪われています。

これからのことを踏まえて、私たちのでききる支援を考えてみました。

私たちは、ブータンの貧富の格差をなくすために、日本がただ金銭面的な支援をするだけではなく、日本が積極的に人員を派遣し農業技術や農業の近代化をはかり、農業収入の増加させるための知識を教えることが必要だと思います。指導するのではなく、現地の人と実践することで、より技術を定着させるという方法が、ブータン人自身の自立、発展のためになると思います。またこの方式をとることで、ブータンの農民が豊かになると考えられます。ブータンの国民の 80%は農民であるために、このことはブータン全体の賃金の上昇につながると思います。そしてこのような支援をすることで、私たちと日本との関係をより深いものにしたと考えます。現在、ブータンからの輸出額は、日本からくるものの 1/17 となっています。日本との貿易は赤字ですが、ブータンには日本にとって魅力的な農産物資源が沢山あります。たとえばゼンマイと蕎麦があります。それと日本で高級食材の松竹はブータンでは全く食用とされていません。なので、日本への高価値での輸出に向いていると思われます。これらの他にも、ブータンには、まだまだ注目されていない農産物や資源が眠っていると思います。またこれらの（日本との）貿易は、両国にとっても良いものになると思われます。

次に政治の良い点を発表します。



まず、ブータンの政治の歴史についてお話しします。1616年、ガワン＝ナムゲルがチベット仏教ドゥク派の後継者争いの中で、現在のブータンに移住し、自らの政権を樹立しました。その後、計6回にわたるチベットからの侵攻、攻撃を受け、ガワン＝ナムゲルが撃



退されてしまいます。17 世紀に入ると隣国のアッサム、ベンガルなどの平野部を植民地化します。しかしこのことが、当時インドへの支配力を強めていたイギリスの反発を招き、1864 年にイギリス＝ブータン戦争が勃発します。その戦争に敗北したブータンは、植民地としていた平野部をイギリスに割譲しました。1907 年にブータン王国として独立。当時はワンチュク政治による絶対君主政でした。その後は、1971 年には国連に加盟したり、現在に至るまで中国との国境争いもありました。現在、ブータンで採用されている立憲君主制は、今の第 5 代国王が即位してから始まりました。

次は、ワンチュク政権についてです。王国成立から 5 代にわたって、王権を引き継いできました。現在のケサル＝ナムゲル＝ワンチュク国王は、親日家として知られ、2011 年 11 月に震災後初の国賓として、ペマ王妃とともに来日しました。民主化と近代化については、3 代国王の時代から推し進められています。その中で 2006 年に退任した第 4 代ジグメ＝シンゲ＝ワンチュク国王は驚きの国家ビジョンを打ち出しました。次にそのビジョンである GNH について説明します。GNH とは、Gross National Happiness の略で、国民総幸福量を指します。環境、政治、経済、文化という 4 本の柱があり、急激な経済成長よりも、国民の幸せを目指そうというものです。具体的には、伝統を守り、自然との共生をはかる環境志向や、道路や飛行場などのインフラ整備よりも、森林や農地の保全を優先することなどがあります。

これらのことを踏まえて、ブータンから学べることをまとめてみました。

日本はブータンから多くのことをまなべます。ブータンは国民の 97% がこの状況にもかかわらず、幸せだと感じています。これは、「ただ近代化されていけばいいというだけでは幸せになれない」ということを、私たちに示しているということなのだと思います。伝統や自国文化や、農業を大切に守っていけるという意識を持つていくことも、私たち日本人にとって大切だと思います。

## 5 班 生活・文化からの学びと支援



私たちは、ブータンの生活と文化について調べました。

まずブータンの良い所を発表します。ブータンには、キラ、ゴという民族衣装があります。学校の制服に民族衣装を着ることが決められていたり、地方に仮面舞踏会が残っているなど、伝統を守る傾向にあります。食事は唐辛子料理がメインです。(模造紙の写真を見ると)お父さんが夕食を作ったり、家族一緒にご飯を食べたり、一家団欒の様子がうかがえます。またブータンは高地なので紫外線が強いです。それなので屋根と家の間に、大きな空間を作っています。また一般的に 6 畳一間ほどの仏間があり、信仰心が強いことがうかがわれます。各家庭には国王の写真が必ずあります。学校では全生徒にゾンカ語の授業が義務付けられています。これが私たちの感じたブータンの良い所です。

次にブータンの悪い所です。(模造紙の写真のように)首都ティンパーの街中の様子を見ると、町の中なのにホームレスの人がいるので、必ずしも全員が裕福ではないようです。首都ではあるが、町には活気があるようにみえません。また(ティンパーでは)農村部からの人口流入による建設ラッシュで、棚田がほぼすべてアパートやホテルの建設用地に変わっています。

これは(模造紙にある写真は)首都ティンパーの道路の様子です。ガイドブックでよく見られる風景ですが、信号がないため、人が交通整理をしなくてはなりません。近年の都市化により、自動車使用量が増え、渋滞が発生しやすくなっているため、現在は一時、車の輸入をストップしています。

都市部からのゴミ急増も近年の問題の一つです。これは(模造紙にある写真は)首都ティンパー郊外の谷中にあるメラカゴミ処分場の様子です。ゴミが散乱していて、犬や蠅が沢山います。またそこからの廃液が漏れ出して、沢に入り、水質汚染が問題になっています。

そして近年のグローバル文化は、ブータン人の価値観をむしろぶちやがけています。そのため政府はテレビ放送の制限に乗り出しました。国際化というと良いイメージを持つかもしれませんが、ブータンにとってはそうではないようです。

これらのことからまず日本がブータンから学べると思ったことは、一家団欒や男性が家事をやっているということです。これは今の日本は、両親が共働きのため子供が一人でご飯を食べることが結構増えており、また日本では女性が家事をするという考えが根強いいため、男性が家事を手伝わない傾向があるからです。



また日本がブータンに支援するべきと思ったことは、ゴミ問題に対するゼロ・エミッションのノウハウです。ゼロ・エミッションとは、産業により排出される様々な廃棄物、副産物について、他の産業の資源として再活用することにより、社会全体として廃棄物をゼロにしようという考え方のことです。説明では分かりづらいと思うので、再現してみます。

(以下、3人のメンバーが、廃棄物・副産物を表す様々な形の紙を、椅子に座っているメンバーの所にもっていき、「分別」を受けるという短時間の劇が行われた)



ある日のヤマピボ工場，社員3人は社長の指示のもと，ネジやスプーン，フォーク，鉄くずなどを分別しています。

「鉄くずは・・・こっち」，「ペットボトルは・・・そっち」，「プラスチックも・・・あっち」，「ビンは・・・こっち」

分別されたあと，それぞれを使う工場に運ばれます。そのあと分別れたものを溶かしたり，たたいたり，つぶしたりします。そして新しい部品につくりかえられます。これによって無限ループが生まれます。

日本は（このゼロ・エミッションについて），最も豊富な経験と知識をもっており，企業などもゼロ・エミッションを提言しています。このような良い面を，ブータンに伝えていってはどうかと考えてみました。

このようにブータンと生活と文化の中には，私たちの知らない良い所と，悪い所がありました。世界一幸せな国と言われていますが，課題点も多くみつけられました。ブータンから学べること，日本から支援できることはまだまだ沢山あるので，これから助け合っていくことが大切だと思いました。

## 6 班 宗教・民族からの学びと支援



私たちは、ブータンの宗教について調べました。「幸せの国」と呼ばれるブータンは、本当はどのようなところなのでしょうか、見ていきましょう。

まずブータンは、世界で唯一のチベット仏教を国教としている国です。そのおおもとには、「足るを知る」という考え方があります。ブータンでは、「足るを知る者は富む」とされているので、周りに困っている人がいたら、自分だけ幸せにはなれません。そこに助け合いの精神が生まれます。そして人生は「業」で繋がり、それに反することはできないけれど、最善を尽くして、あとは「あるがまま」を受け入れます。「GNH」もこの考え方からきているのです。

2011年の東日本大震災の際には、物資支援のほかにも、ブータン国王閣下や総理大臣などが1000個以上のバターランプを灯して、犠牲者に祈りを捧げました。このようにブータンと日本は、強い絆で結ばれているのです。

さて、ブータンの町には野良犬が数多くみられます。何故でしょう。それは人々が仏教の教えである輪廻転生を信じているからです。生まれ代わるものの命を大切にするので、蠅も蚊も殺しません。とくに犬は、必ず人間に生まれ代われると信じられているため、野良犬が町じゅうに溢れているのが日常です。生類憐みの令を出した徳川綱吉の時代みたいです。

仏教の中で、日本が学ぶべきところはまず、ブータンの仏教への信仰によって作られる勉強への姿勢です。学校では毎朝の各授業の始業前に、短時間瞑想をします。それに加え、毎朝、読経、放課後にお祈りをします。子供たちは、心を落ち着かせて、勉強に専念することができます。「居残り（勉強）」で出られないときには、お祈りより勉強を優先します。

ブータンの伝統的なものは、（模造紙の写真をさしながら）このようなものです。（実物をメンバーでもちながら）今ここにあるのは、ルンタという経文旗です。風通しの良い所に沢山しつらえてあり、風が吹いてはためくと、お経を読んだこととなります。綺麗な色でつなげており、青は水、赤は火、黄色は土、緑は木、白は空気を意味しています。日本



にも伝統的なものは多くありますが、ブータンでは日々の生活の中でなじんでいます。仏教を身近に感じながら生活しているのです。

このようなことからブータンにおいて、仏教は政治、経済、社会の中心であり、仏教の教えを基盤とした生活が営まれ、深く浸透しているといえます。伝統的なエチケットや、自然を守ること、人々への愛、互いに助け合い、分かち合うという教えも私たちは、学んでいかなければならないと思いました。



次にブータンの民族構成は、(民族構成をまとめた画用紙を示した状態で)このようになっています。チベット仏教の国のブータンでは、チベット系住民を最も多く保つため、ネパール系民族のローツァンパの追放なども行ってきました。ブータンの人口は70万人で、そのうち難民の数は6人に一人で、世界的に多い水準になっています。ブータンの長期化した難民キャンプでは、環境に配慮した取り組みが進んでいます。



(UNHCR公式サイトによれば) ある難民キャンプでは、「UNHCR (国連難民高等

弁務官事務所)が、太陽光をエネルギー源とした調理器具であるソーラークッカーの提供を行っています。調理には、ソーラークッカーの使用と並行して、熱効率を高め、薪の使用量を減らす改良かまども使用されています。調理用燃料として配給されていた灯油は、2006年1月より、石炭の粉末を固めて作った固形燃料に切り替えられました。UNHCRは将来的に、難民と地域住民の共同作業で環境にやさしい植物などの原料から固形燃料を生産し、難民に支給することを目指しています。また、夜の真っ暗な難民キャンプを明るく照らすため、太陽光発電街灯が設置されています。難民キャンプは、電気の通っていない場所が多く、難民たちは夜間の治安に不安を感じていましたが、太陽光発電街灯が導入されたことで、夜間でも安心して水汲みやトイレに行けるようになっていきます。太陽光発電街灯は、一度設置するとメンテナンス費もほとんどかからず、環境面にも配慮した、持続可能な支援のひとつです。」

このように難民キャンプは充実してきていますが、難民問題は解決したわけではありません。(日本人を含めた世界の)人々がブータンの難民問題を無視せずに、きちんと向き合い、政府がおろそかにしている難民問題に、反対する意思表示をする(支援を行う)ことで、本当に幸せの国になるといえるのではないのでしょうか。

では最後に、すべての人が輪廻から解放されるように、みんなでお経を読みましょう。

**せーの！・・・オンマニ・ペムフン、オンマニ・ペムフン・・・**

ありがとうございました。

## 4 生徒の考えた「学び」と「支援」のまとめ

### 1 班（自然） 学び

ブータンが動植物を大切にしていること

#### 支援

一つ目は「お金」で、そのお金で、ダムの建設や、治水の整備などを行ってもらう。二つ目は、自然災害の防災プログラムの提供や、ハザードマップの活用支援など日本の技術を伝える。三つめは日本が個人および企業へのボランティアを推進し、ボランティアを増やしていく。

### 5 班（生活文化） 学び

一家団欒や男性が家事をやっているということ。

#### 支援

ゴミ問題に対するゼロ・エミッションのノウハウ。

### 2 班（医療・福祉） 学び

人間も動物も、医療費がかからないこと。

#### 支援

医療水準向上のために、医師については、研修生の長期化・研修内容の充実をはかる。そして日本人医師を多く派遣することにより、研修医の基礎向上を図る。医療施設については、医療機器の提供や救急車の更新や修理をして、しっかりとした医療現場の土台を作ります。医療品は投薬量や種類など、の基準を適正なものに取り決める。

### 4 班（政治） 学び

近代化ばかりではなく、伝統や自国文化や、農業を大切に守っていこうという意識。

#### 支援

貧富の格差をなくすために、ただ金銭的な支援をするだけではなく、積極的に人員を派遣し農業技術や農業の近代化をはかり、農業収入の増加させるための知識を教える。指導するのではなく、現地の人と実践することで、より技術を定着させる。

### 3 班（教育） 学び

思いやりや、真面目な精神を育てる教育方針。

#### 支援

学校建設、ボランティアの派遣、そして「研修生」を受け入れるという点。

### 6 班（宗教・民族） 学び

伝統的なエチケットや、自然を守ること、人々への愛、互いに助け合い、分かち合うという仏教に根差した教え。

#### 支援

（日本人を含めた世界の）人々がブータンの難民問題を無視せずに、きちんと向き合い、政府がおろそかにしている難民問題に、反対する意思表示をする。



## 5 授業後のアンケート結果

①～⑪の点について、「今回の授業を通して、あなたは変わったと感じますか」の答え

